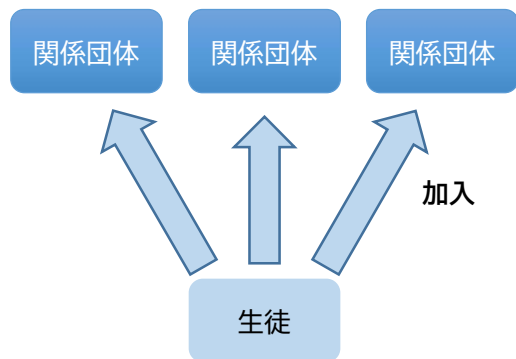


○各団体加入型



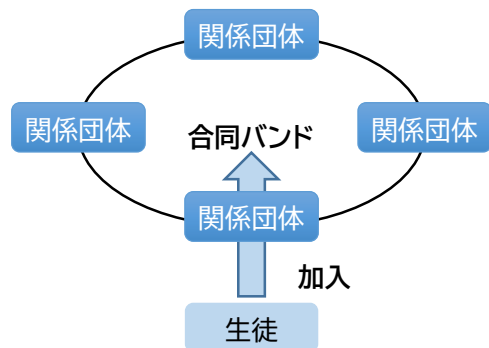
生徒が加入を選択し、各団体で指導を行う。

【主な意見等】

- 団体は週に数回や月に数回の活動状況である。
- 個人練習から始まる部活動に対し、団体は演奏ができる人が集まり、全体で演奏することが多い。
- 生徒の指導に時間が費やされ、大人の活動ができなくなる。
- 普段の仕事もあり、指導する時間を確保できるか。
- 上手な生徒は団体での活動も可能。

→楽器をやりたい生徒は各団体で活動することができるが、生徒の指導や初心者への対応から、全体の仕組みとしては難しい。

○合同バンド設立型



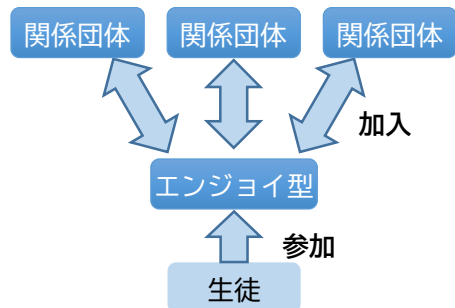
関係団体で合同バンドを設立し、運営、指導を行う。

【主な意見等】

- 楽器の移動や保管を考えると、継続的な活動場所の確保が必要。
- 各団体等からの外部指導者に加え、市で雇用するなど固定的な指導者の確保が必要。
- ボランティアの指導者では活動が続かない。
- 合同で活動するのであれば、音楽を楽しむ合同バンドがいい。さらに真剣に音楽をやりたい生徒は各団体に加入することも考えられる。

→理想像ではあるが、活動場所の確保、指導者確保などの条件により、早急な実現は難しい。

○体験+加入型



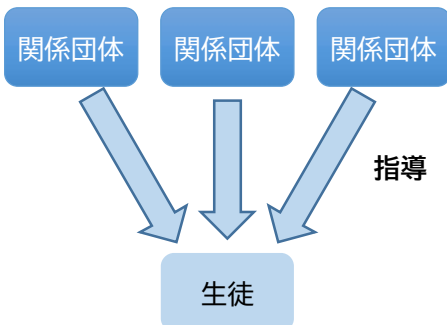
体験プログラムとして吹奏楽(楽器)を楽しめる場を構築。興味をもった生徒は団体へ加入する。

【主な意見等】

- 初心者など音楽を楽しむ場としては考えられる。
- 音が鳴るまで3カ月程度かかる。
- エンジョイ型と各団体のつなぎとなる仕組みが必要。
- 部活動と並行する形であれば、参加する生徒が少ない可能性がある。

→部活動の代わりではなく、部活動で対応できないニーズを補完する。

○指導者派遣型



団体が各学校に対し、指導を行う。

【主な意見等】

- 外部からの指導も必要に応じて検討したい。

→部活動に対する教員の負担軽減としては有効。